

京都検定講演会講師による‘よもやま話’。京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

第20回 京都検定 3級公開テーマ「琵琶湖疏水」 140年前の京都 ～京都の復興策～

[講師]
山村 純也
株式会社らくたび
代表取締役



幕末に京都を襲った禁門の変、鳥羽・伏見の戦いで荒廃した京都の町は、東京奠都により人口が明治維新前から約3分の2へと急減し、商工業も大打撃を受けました。初代京都府知事・長谷信篤、さらに2代知事・榎村正直は、復興に向けて勸業政策・開化政策を推進し、我が国初の小学校をはじめ舎密局、博物館、女紅場、画学校、外国語学校、貧民授産所などを次々と設立しました。明治14年(1881)に3代知事となった北垣国道は、それらの官営事業をすべて民間に払い下げます。明治15年(1882)には京都商工会議所が設立。高木文平が初代会長に就任し、京都の近代化をさらに加速させます。



高木文平

中でも最も大きかったのが、明治18年(1885)から行った琵琶湖疏水事業でした。当時の京都府の年間予算の倍以上ともなる資金を投入して計画を発動させ、難工事を経て、明治23年(1890)



電気鉄道事業発祥の地 石碑

に竣工に持ち込みます。竣工式前夜の竣工夜会では市内各戸に日の丸と提灯が掲げられ、夷川舟溜まり南側に祇園祭の月鉦・鶏鉦・霰天神山・郭巨山が並び、如意ヶ岳の大文字も点火されるなど、大賑わいとなりました。

その間の明治21年(1888)、高木文平は疏水事業の計画者である田邊朔朗との米国視察を行って、疏水事業に水力発電を組み込み、その結果、日本初の市電の開通へとつなげました。疏水事業の当初の目的であった、各地への水力利用、灌漑、防火用水等の供給を実現、船を走らせて運輸面でも多大な貢献をし、現在は史跡、観光としての価値も高まっています。

このように京都の復興は、明治28年(1895)の第4回内国勸業博覧会をひとつのゴールに設定し、見事に成し遂げられたのです。

申込締切間近！7月京都検定お申込み受付中！

7月10日(日)に第20回京都検定を実施します(実施は3級のみ)。今回は、京都検定が第20回を迎えるにあたり、オリジナル御朱印帖付きの受験コースをご用意しました。お申し込みは、5月31日(火)まで。この記念すべき回には、是非ご受験ください！

詳細は京都検定公式HPから▶



オリジナル御朱印帖

※京都検定では「公開テーマ」に関する問題が各級10問出題されます。第20回(7月10日施行)3級の公開テーマは「琵琶湖疏水」です。
※「京都・観光文化検定試験®」、「京都検定®」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。